

どんなときも折れない しなやかな暮らしのつくり方 ～コミュニティ・レジリエンスをつくる～



発行
静岡2.0

目次

1. はじめに - 冊子制作の思い -

2. レジリエンスとは

3. コミュニティ・レジリエンスの見方・考え方

- ・ キーワード1 「点から線へ」
- ・ キーワード2 「木も見て森も見る」

4. コミュニティ・レジリエンスの事例

- ・ 事例1 真野まちづくり推進会（兵庫県神戸市）
- ・ 事例2 ホテル観洋 阿部憲子さん（宮城県南三陸町）
- ・ 事例3 NPO法人青少年就労支援ネットワーク静岡（静岡県）

5. 対話してみよう

6. おわりに - みなさんへのメッセージ -

1. はじめに - 冊子制作の思い -

この冊子は、「私たちが社会生活をしていくうえで、どのような危機に直面しても、それらを柔軟に乗り越えていくにはどうしたらよいか？」ということ、みなさんと一緒に考えたいという思いのもと制作しました。

たとえば……。

私たちの町にやがてやって来るかもしれない自然災害。

そのとき、私たちは一体どのように乗り越えることができるでしょうか。

「いざ、となったら、お隣さんとしっかり協力しなくちゃ！」

「防災バッグ、用意してないなあ。」

「家族のことは第一に、必ず守りたい！」

「地域で行われている訓練に毎年参加しているから、少しは安心かも。」

「仕事に追われて、準備なんてできてないよ…。」

日々の暮らしの中で、みなさんも自分自身に問い、考えることがあるかもしれません。みなさんはどんな答えをお持ちでしょうか。

今、私たちが暮らしている社会は、いろんな要素が複雑に絡み合っているので、一つの災害が起こると、それに連なって、引きずられるようにいろんなダメージが起きま
す（これを「現代リスク社会」と呼ぶそうです。）。

東日本大震災時の原発事故もその一つです。

地震・津波被害に加えて、原子力発電所の破損により、被害の大きさは、何倍にも膨れ上がりました。

地震を例にとりましたが、実際に社会生活をしている中での「危機」は、地震災害だけではありませんよね。

急に仕事が無くなってしまふ、思わぬ病気や怪我をしてしまふ、知り合いが少なくなつて、なんだか寂しい…。私たちはこうしたことも「危機」だと考えています。

「危機」を柔軟に乗り越える際、「レジリエンス」の視点は、暗闇を照らす灯火のように私たちに大切なヒントをくれます。そしてこの冊子をきっかけに、みなさんがレジリエントな暮らしをつくっていくことに興味を抱いてもらえたなら、とても嬉しいです。

本冊子は、静岡2.0が理念や活動にも影響を受けてきた『協働知創造のレジリエンス一隙間をデザイナー』（清水美香、2015）を参考に制作しました。

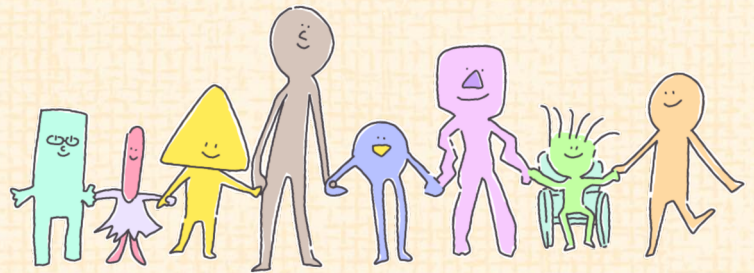
2. レジリエンスとは？

そもそもレジリエンスとはいったい何のことでしょうか。
レジリエンスは「回復力、弾力性、しなやかさ」などと訳すことができます。
下のキーワードとイラストを見て、もう少しレジリエンスのイメージを思い描いてみましょう。

レジリエンスをとらえる10の視点^(*1)



① 信頼



② 多様性



③ 柔軟性の積み重ね



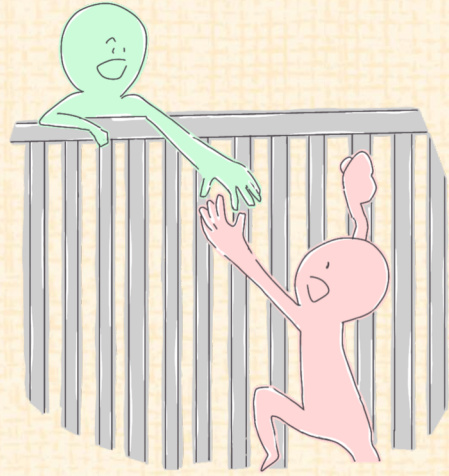
④ 深く沈んでも折れないこと、異なる軌道を通して跳ね返ること。



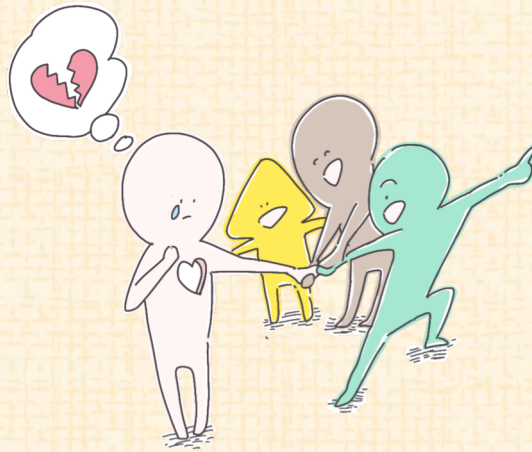
⑤ 自分の弱さ（社会で言えばリスク）を知っていること。



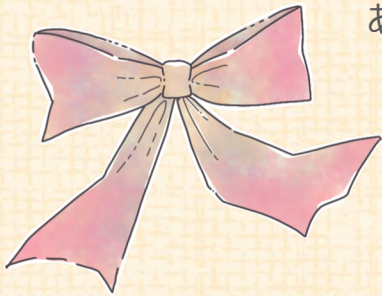
⑥ 危機を「機会」に変えること。



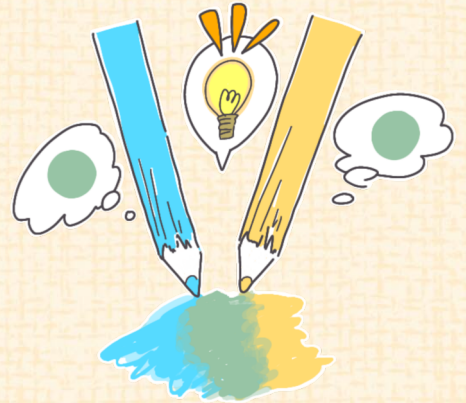
⑦ あらゆる既存の枠を超えること。



⑧ ないものではなく、
あるものに集中すること。



⑨ あらゆるものと繋がること。



⑩ 異なるものを組み合わせて、
新しいものに創りかえること。

これらの視点は、個人や組織が、危機（逆境やストレス）に遭遇したとき、そこから抜け出し、次に進むための貴重なヒントにもなりそうです。

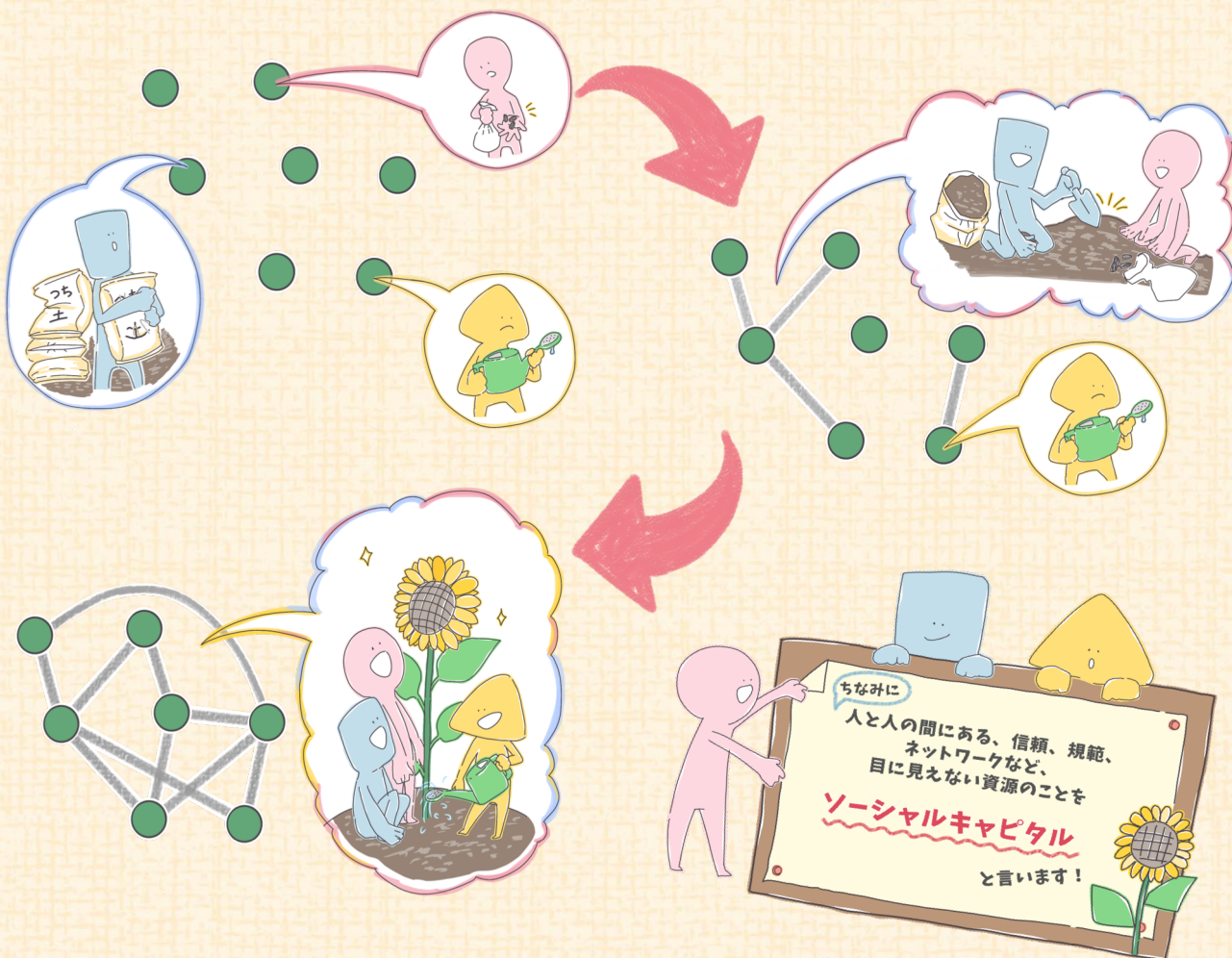
あなたの中にもレジリエンスの経験があるかもしれません。
近くの人と話してみましょう。

3. コミュニティ・レジリエンスの見方・考え方

コミュニティ・レジリエンスとは、地域のレジリエンス、つまり地域の回復力のことで、レジリエンスを高めるために大切な2つのキーワードからコミュニティを見てみましょう！

キーワード1「点」から「線」へ^{(*)2}

「点」とは情報や社会にある資源や、人、組織、知識、専門性などのことです。^{(*)3} レジリエンスを高めるには、社会の中でばらばらに存在しがちなこれらの「点」と「点」を、あらゆる方向から結ぶことが大切です。



「点」から「線」へという言葉は、それぞれの「点」が他の「点」とつながり「線」となることの大切さを示しています。例えば、1つの点で行うよりも複数の点をつないで一緒に取り組んだ方がスムーズな仕組みができたり、解決に近づくことができたりします。

キーワード2「木を見て森も見る」^(*4)

「木を見て森も見る」とは、詳細をしっかりと見る「虫の目」と、空から広い視野で全体を見る「鳥の目」の視点、常にこの2つの視点から問題を捉えることの大切さを教えてくれます。

木や森は、何を意味しているのでしょうか？

「木」は、私たち一人ひとりのことやコミュニティ、民間組織、政府、などの一つひとつのシステムのことです。「森」は、それらを全体として捉えたもの（システムズ）です。

例えば、あなたの住んでいる街という「木」の一本一本が集まって、静岡という「森」ができていると考えられます。または、あなたの住んでいる街を一つの「森」と考えると、街にある企業や行政、学校、自治会（町内会）などが「木」になります。何を「木」と考えるかによって、「森」にあたるものも変わってきます。そして、もちろんその逆も同じです。

「システム」と「システム」は離れていると機能しません。だからこそ、その隙間をデザインしていくことが、私たちの社会の問題解決の鍵になるのです。

もっと詳しく！

「木」と「森」の見方とはたらきかけ^(*5)

- ・ 「木」と「木」はそれぞれ独立して機能する必要があります。しかし、それと同時に、森全体が機能するためには「木」と「木」を繋げる「ハブ（hub）」による調整機能が欠かせません。
- ・ ①それぞれの木の機能、②それぞれの木を取り巻く環境の変化、③それぞれの木と木の中の「境界」を詳しく見て（分析し）、そして「木」と「木」を繋ぎ、「森」全体として機能していく必要があります。
- ・ 「木」と「森」を機能させるためには、「継続的にチェックして更新する」必要があります。

*4 『協働知創造のレジリエンス』（清水、2015）p38より抜粋

*5 『協働知創造のレジリエンス』（清水、2015）p39「システムズ・アプローチ」より引用

